

神聖な三一と共に生きる (3)

神聖な三一を完全に経験し享受する

聖書：マタイ 28:19. II コリント 13:14. 啓 1:4-5. 4:5. 5:6

- I. 新約における神聖な三一の最も明確な啓示は、マタイ第 28 章 19 節にあります。この節は、「父と子と聖霊の名の中へと」バプテスマすることについて語っています：
- A. 神は唯一無二ですが、三つのパースン、すなわち父、子、霊があります——マタイ 28:19。
- B. 一方で、マタイ第 28 章 19 節は、父、子、聖霊について語っています。もう一方で、この節にはただ一つの御名、すなわち、父と子と聖霊の御名だけがあります：
1. その御名は、神聖な存在の総合計であり、彼のパースンと等しいです。
 2. 一つの御名は、三者、すなわち、父、子、聖霊を含んでいます。この事は、神が三・一であることを啓示しています。
 3. 信者たちを三一の神の御名の中へとバプテスマすることは、彼らを三一の神であるすべての中へと浸し込み、また彼らを三一の神のパースンの中へともたらすことです。それは、彼らがこの神聖なパースンとの有機的な結合を持つためです——19 節。
- C. 父と子と聖霊の御名の中へとバプテスマされることは、深遠な事柄です——I コリント 12:13. ガラテヤ 3:27：
1. マタイ第 28 章 19 節の「の中へと」が示しているのは、ローマ第 6 章 3 節とガラテヤ第 3 章 27 節にあるような結合です。
 2. 三一の神の御名の中へとバプテスマされることは、三一の神との奥義的な結合の中へと入れられること、また神であるすべてをわたしたちの存在の中へと適用することです——マタイ 28:19。
- D. マタイ第 28 章 19 節で与えられた命令は、主イエスが復活の中へと入った後、彼によって与えられました。復活は、三一の神の手順の完成でした：
1. 三一の神は、手順を経過しました。この手順は、肉体と成ることをもって開始し、人の生活と十字架を含み、復活をもって完成しました——ヨハネ 1:14. ローマ 6:4。
 2. 復活において、三一の神の具体化であるキリストは、信者たちが神聖な三一の中へとバプテスマされるために、命を与える霊、すなわち、三一の神の究極的完成と成りました——I コリント 15:45. II コリント 3:17。
 3. 三一のパースンの中へとバプテスマされることは、手順を経た三一の神の究極的完成である、すべてを含む、究極的に完成された霊の中でバプテスマされることです——マタイ 28:19：
- a. この事は、御父の豊富の中へと、御子の豊富の中へと、その霊の豊富の中へとバプテスマされることです——エペソ 3:8。
 - b. わたしたちは今、バプテスマされた者として、三一の神との有機的な結合の中にいます。こういうわけで、御父が持っているものは何であれ、御子が持っているものは何であれ、その霊が受けているものは何であれ、わたしたちのもの

となります— I コリント 6:17. ヨハネ 15:4-5, 7.

II. 神聖な三一を完全に経験し享受することは、神の愛、主イエス・キリストの恵み、聖霊の交わりにあずかることです— II コリント 13:14 :

A. II コリント第 13 章 14 節がわたしたちに示しているのは、三つの面における三つのパーソン、すなわち父なる神（愛）、神の御子である主イエス・キリスト（恵み）、聖霊（交わり）です。

B. 父なる神の愛は源です。なぜなら、神は起源であるからです。主の恵みは、神の愛の経路です。なぜなら、主は神の表現であるからです。その霊の交わりは、神の愛を伴う主の恵みの分け与えです。なぜなら、その霊は神を伴う主の伝達であって、それは、わたしたちが三一の神、すなわち、父、子、聖霊を経験し享受するためであるからです— II コリント 13:14. マタイ 28:19.

C. II コリント第 13 章 14 節の愛、恵み、交わりは、マタイ第 28 章 19 節の父、子、聖霊と符合しています :

1. 主の恵みは、わたしたちにとって命である主ご自身であり、わたしたちが享受するためです— ヨハネ 1:17. I コリント 15:10.

2. 神の愛は、主の恵みの源である神ご自身です— I ヨハネ 4:9.

3. その霊の交わりは、神の愛を伴う主の恵みの伝達であるその霊ご自身であり、わたしたちがあずかるためです— II コリント 13:14.

4. 父なる神の愛は、御子キリストの恵みにおいて表現されており、御子キリストの恵みは、霊なる神の交わりの中にあり、信者たちに伝達されています— ヨハネ 3:16. 1:17, 16 :

a. 聖霊の交わりを通して、恵みはわたしたちに到達することができます— II コリント 13:14.

b. キリストの恵みは、神の愛から出て来ます。この恵みは聖霊の交わりを通して、わたしたちに伝達されて、わたしたちの中へと入って来ます— 14 節.

c. わたしたちは主の恵みを経験し享受するために、聖霊の交わりの中にいる必要があります。わたしたちは主の恵みを享受しているとき、神の愛を味わっています— ヨハネ 1:14, 16. I ヨハネ 4:9-10.

D. 神聖な三一には源、経路、流れがあります— II コリント 13:14 :

1. 源、源泉は、神の愛です— ヨハネ 3:16. 4:14.

2. 経路、流れ出は、キリストによって表現されわたしたちに伝達される恵みです— I コリント 16:23.

3. 流れは、御父の愛を伴うキリストの恵みの交わり（伝達、循環）である聖霊です— II コリント 13:14.

III. 神聖な三一を完全に経験し享受することが究極的に完成されるのは、今おられ、昔おられ、やがて来ようとしておられる方によってであり、七つの霊によってであり、忠信な証人、死人の中から最初に生まれた方、地上の諸王の支配者であるイエス・キリストによってです— 啓 1:4-5 :

A. 啓示録第 1 章 4 節は、今おられ、昔おられ、やがて来ようとしておられる方である神について語っています :

1. これは、エホバという御名の意味です：
 - a. ヘブル語のエホバが意味しているのは、「わたしは、『わたしはある』である」です——出 3:14, 6。
 - b. 彼が「わたしはある」であることが表徴しているのは、彼が永遠から永遠へと存在している方であるということです。
2. 神は、「ある」という唯一の方、「ある」という実際を持っている唯一の方です。
3. ヘブル第 11 章 6 節は、「神に進み出る者は、『神はある』ことを……信じるはず」であると言っています：
 - a. ヘブル第 11 章 6 節によれば、「神はある」のであり、わたしたちは「神はある」ことを信じなければなりません。
 - b. 今おられ、昔おられ、やがて来ようとしておられる方として、神は自ら存在する方また永遠に存在する方であり、その存在が彼ご自身以外の何にも依り頼まない方であり、永遠にわたって存在して初めも終わりもない方です——出 3:14。
 - c. 「神はある」ことを信じることは、彼がわたしたちにとってすべてであり、またわたしたちが無であることを信じることです——ヨハネ 8:58. 伝 1:2。
 - d. 「神はある」ことを信じるのが暗示するのは、わたしたちはないということです。神はあらゆることにおいて唯一の方、唯一無二の方でなければならず、わたしたちはあらゆることにおいて無でなければなりません——ヘブル 11:5. 創 5:22-24。
- B. 啓示録第 1 章 4 節は、「彼の御座の前の七つの霊」について語っています：
 1. 啓示録において、その霊は七つの霊（啓 1:4, 4:5, 5:6）、すなわち、七倍に強化された霊と呼ばれています。
 2. 啓示録第 1 章 4 節の七つの霊は、疑いもなく神の一つ霊です（エペソ 4:4）。なぜなら、それは三一の神の間に位置づけられているからです。
 3. 七は神の活動における完全な数ですから、七つの霊は、地上における神の行動のためでなければなりません——啓 4:5：
 - a. 本質と存在において、神の霊は一です。
 - b. 神の活動の強化された機能と働きにおいて、彼の霊は七倍になっています——啓 1:4。
 4. 「七つの霊」という称号が示しているのは、その霊が七倍に強化されたということです。この霊は、その霊のすべての要素、すなわち、神性、肉体と成ること、十字架、復活、実際、恵みを強化しています——啓 3:1。
 5. 啓示録第 5 章 6 節によれば、神の七つの霊は、小羊の七つの目です：
 - a. キリストは御座の上の贖う小羊として、観察し探り求める七つの目を持っており、神の裁きを宇宙に対して執行し、神の永遠の定められた御旨を成就します。この事は、新エルサレムを建造することにおいて究極的に完成します——啓 4:5, 21:2, 9-10。
 - b. 七つの霊は小羊の七つの目として、注入するためでもあります。
 - c. キリストがご自身の七つの目をもってわたしたちを見るとき、これらの目、すなわち、七つの霊は、キリストの要素とキリストご自身をわたしたちの中へと

注入して、わたしたちを造り変えます——啓 5:6。

C. 啓示録第 1 章 5 節は、「忠信な証人、死人の中から最初に生まれた方、地上の諸王の支配者であるイエス・キリスト」について語っています：

1. キリストは神の生ける忠信な証人として、ご自身の言葉また行為によってだけではなく、ご自身が何であるかによっても、神を証しする方です。彼の存在は神の証しです—— 5 節前。
2. キリストが死人の中から最初に生まれた方であることは、彼の復活を指しています。彼は生きている方、すなわち死んで、今や永遠にわたって生きており、死とハデス [陰府] のかぎを持つ方です—— 5 節中, 18 節。
3. 主イエスはご自身の昇天において、地上の諸王の支配者です—— 5 節後：
 - a. 主イエスは、肉体と成ること、人の生活、十字架、復活、昇天を経過して、御座に着いており、すべての諸王の上にあります——啓 5:6。
 - b. 御座に着いた方である主イエスは、地上の諸王の支配者として、地、すなわち、この世全体を支配しています—— 1:5 後。